

令和6年7月29日

## 令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

2023年 リンデンホールスクール小学部

本年度も、全学年の児童が、英語、算数、生活、理科、音楽、体育、環境などの授業において「英語イマージョン教育」を継続して行った。児童たちは、外国人の先生たちと積極的にコミュニケーションを図ったり、英語での授業を熱心に聞いたり、積極的に活動に参加したりしていた。また、「環境」の授業においても、日々の学校生活や、地域の農家「オーガニックパパ」での農業体験、校内にあるリンデンファームなどで、児童たちは様々な活動に取り組んだ。以下に主な学習活動について列挙する。

### 1. リンデン祭のスピーチのテーマ

リンデン祭において、4年生は「絶滅危惧種」について英語でスピーチを行った。夏休み前から、絶滅危惧種について学び、どの動物についてリサーチするかを決めて、研究を進めていき、少しずつクラスでディスカッションをしたり、先生に質問をしたりしながら、スピーチを仕上げた。夏休み中に各自が練習をした後、リンデン祭で、スピーチを発表できた。また、リンデン祭においては、制服等のリサイクルを行い、日々の生活の中で意識的に自分たちが出来ることを積極的に行った。

#### [評価]

児童は授業の中で先生や友達から絶滅危惧種やその動物たちと取り巻く環境について興味を持ちながら詳しく深く学ぶことが出来た。自分自身のリサーチやとクラスメイトのスピーチからもお互いに学び合うことができた。ほとんどの児童は動物に興味があるので、スピーチを聞く側も熱心にスピーチを聞くことが出来た。クラスだけでなく、縦割りグループでも、お互いのスピーチを披露したり、意見交換をしたり、ディスカッションをしたりして、様々な環境の中でどのような動物や生物が絶滅危惧種になっているかについて、知識や理解を深めることが出来た。保護者や一般の方も参加した。

### 2. コンポスト

「環境」の取り組みの中の一つで、毎日の給食の残飯をコンポストにしている。全学年が土に戻るものと、戻らないものを分別し、そのコンポストで堆肥を作り、その堆肥をリ

ンデンファームで活用し、そこで野菜を育てその野菜を給食で頂くという循環的な仕組みを理解できる体験学習を行っている。

[評価]

4年生が全員交代で、給食後の昼休みの時間を活用してコンポストの活動をしている。給食を食べるのが遅い児童がいたり、コンポストのバケツを持ってくるのが遅かったり、途中でバケツをこぼしたり、色々なアクシデントがある中で、児童たちは積極的に環境を守る活動をひたむきにコツコツと頑張っている。毎日の繰り返しの中で、コンポストの過程には様々な苦労があり、時間もかかりますが、循環的な仕組みを理解するためには大変貴重な体験になっていると思う。

### 3. オーガニック農業体験

引き続き、有機栽培を行っている地元農家と連携しながら、オーガニック給食を提供している。体験学習としてこの農家を訪れ、一緒に作業をしたり、有機栽培について体験的に学んだりする機会を設けている。

[評価]

現在、オーガニック給食は、定着している状況で、児童だけではなく、保護者からも、毎日のことなのでとても嬉しいという声が多い。また、児童らも、実際にオーガニック野菜を育てたり、食べたり、学んだりすることで、環境や、自分たちが食べるものについての関心が高まり、環境や食についての意識も高くなっているように感じる。

### 4. 海外の留学生との「環境」についてのディスカッション

海外の姉妹校と、「環境」についての、ディスカッションを行った。それぞれの国や学校で取り組んでいる活動や、問題点、改善点などについて、それぞれの意見を英語で述べたり、質問をしたりすることができた。

[評価]

今回のディスカッションを行ったのは、オーストラリアのビーコンヒルズカレッジとは、10年間姉妹校関係を継続している。過去に、オーストラリアでホームステイを経験した児童もいる。今回、オーストラリアから来日し、本校の児童の家庭にホームステイしている期間に、ディスカッションを行った。お互いの国の状況については、少し理解があるが、まずは、地球レベルで「環境問題」について、改めて、それぞれの国が抱

えている環境問題について考え、環境保全のためにどのような活動をしているか、またどうすれば良いかなどについて考え、それぞれの意見を言い合い、ディスカッションをしたことで、改め学びが確認できた。いつものクラスメイトではなく、英語が母国語であるオーストラリアの友達とコミュニケーションを図ることにとっても興味を持ちながら取り組んでいた。

## 5. English Star

毎月行われる全校集会で、各クラスで特にながらんで英語でコミュニケーションを図っている児童を評価し、表彰することによって、英語を話すことに対して積極的に楽しく取り組むように働きかけをしている。

### [評価]

毎月各クラスで1人しか English Star の賞状を受け取ることができないので、全校集会で賞状を受け取る時の児童は嬉しそうにしているし、周りの児童からも「すごいな～」と感じながら評価をしていると思う。また毎週保護者に配布する Newsletter にも、今月の English Stars の名前を掲載しているので、保護者からも、「先生や友達からすごいと褒められてから更に英語に興味を持って取り組むようになった」とか、あまり自信がなかったが、表彰されてから前より自信をもって英語を頑張るようになった。」など嬉しいコメントが寄せられている。

7. 毎月1度の委員会活動では、「エコ委員会」が、地球に優しい活動を行っている。ペットボトルキャップを集めて、地域のスーパーに届ける活動を続けている。

### [評価]

この活動を通じて、児童の多くが、毎日の生活の中で何か自分にできることはないかと考えながら行動できるようになってきている。

## 8. Green City をつくるプロジェクト

「環境」の授業のなかで、児童らが自ら考えて「Green City」をつくるプロジェクトがある。環境に優しいレストランや、会社、町を自分たちで考えて、グループの仲間と一緒にジオラマやポスターなどをつくった。

### [評価]

子供たちが日ごろから学んでいることを、グループの友達とディスカッションをしながら、1つのジオラマを作る過程で、どうするとより良い地球をつくることができるのか？持

続可能な仕組みを作るためにどうすればよいのかなど、様々な観点から自分たちが作りたいレストラン、会社、町をデザインし作ることができた。

## 9. シェイクスピア英語劇

1年生から6年生の児童が全員参加し、シェイクスピア英語劇「アテネのタイモン」を行った。英語の授業の中で、ストーリーに親しんだり、高学年が低学年に人形劇スタイルで話の内容が分かるように披露したり、縦割りグループで舞台道具を作成をした。感情豊かに表現する活動も取り入れながら、セリフを一生懸命に覚え、全員舞台上で演じることが出来た。また、児童たちは、ポスターやパンフレットづくりにも関わり、頑張って作成した。

### [評価]

日々の練習で、内容や各キャラクターの性格や立場、状況を理解しながら、声の出し方やステージでのジェスチャー、豊かな表現力を学び、セリフを一生懸命に覚えて、「アテネのタイモン」を全校児童で見事に演じることができた。当日は、保護者や地域から一般の方も観覧してくれた。